

取扱説明書

工事説明付き

ワイヤレス受信機 業務用

品番 **WX-UR602**
WX-UR604



保証書付き

このたびは、パナソニック製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

- 取扱説明書をよくお読みのうえ、正しく安全にお使いください。
- ご使用前に「安全上のご注意」(5～7ページ)を必ずお読みください。
- 保証書は、「お買い上げ日・販売店名」などの記入を確かめ、取扱説明書とともに大切に保管してください。



はじめに

商品概要

本機は、800 MHz 帯アナログワイヤレス専用の受信機です。受信部にデジタル回路を採用し音声信号のノイズの低減、ダイバーシティ切り替えの高速化を実現しています。

- WX-UR602は2チャンネル、WX-UR604は4チャンネルの受信機です。
- 本機はダイバーシティ受信方式を採用しており、 α 、 β の2系統のアンテナで電波受信の安定性を向上させデッドポイントを低減します。デジタル回路採用により、瞬時のデッドポイントにも低減効果を発揮します。
- 受信レベル表示機能、スキャン機能、スケルチ解除機能を搭載し、設置したシステムの受信環境を確認することができます。
- 使用中のワイヤレスマイクロホンの電池残量状態を表示（緑色、橙色、赤色、消灯）させることができます。
- 受信機本体から α 、 β 各2台のアンテナ感度をリモートコントロールすることができます。
- 待機時混信低減機能を搭載し、外部からの混信を低減できます。

接続できるワイヤレス機器

本機は、以下の受信機・混合分配器・アンテナ等でシステムを構成することで、以下のワイヤレスマイクの電波を受信できます。

- 受信機…………… WX-UR602、WX-UR604、WX-UR502、WX-UR504
- アンテナ…………… WX-UA695、WX-4950A、WX-4965、WX-4970
- 混合分配器…………… WX-4910
- ワイヤレスマイク… WX-UT610、WX-UT630、WX-4100B、WX-4212C、WX-4300B、WX-4360B
WX-4370B、WX-4400C、WX-4600、WX-4700、WX-4800

付属品をご確認ください

ラックマウント金具……………	2個
ラックマウント金具取付ねじ (M4×10 mm) ……	4本
取扱説明書 兼 保証書 (本書)……………	1冊

免責について

弊社はいかなる場合も以下に関して一切の責任を負わないものとします。

- ① 本商品に関連して直接または間接に発生した、偶発的、特殊、または結果的損害・被害
- ② お客様の誤使用や不注意による障害または本商品の破損など不便・損害・被害
- ③ お客様による本商品の分解、修理または改造が行われた場合、それに起因するかどうかにかかわらず、発生した一切の故障または不具合
- ④ 本商品の故障・不具合を含む何らかの理由または原因により、拡声ができないことなどで被る不便・損害・被害
- ⑤ 第三者の機器などと組み合わせたシステムによる不具合、あるいはその結果被る不便・損害・被害
- ⑥ 取付方法の不備など、本商品の不良によるもの以外の事故に対する不便・損害・被害
- ⑦ 登録した情報内容が何らかの原因により消失してしまうこと

取扱説明書に記載されていない方法や、指定の部品を使用しない方法で施工されたことにより事故や損害が生じたときには、当社では責任を負えません。また、その施工が原因で故障が生じた場合は、製品保証の対象外となります。

著作権について

本製品に含まれるソフトウェアの譲渡、コピー、逆アセンブル、逆コンパイル、リバースエンジニアリングは禁じられています。また、本製品に含まれるすべてのソフトウェアの輸出法令に違反した輸出行為は禁じられています。

略称について

本書では、以下の略称を使用しています。

- ワイヤレス受信機 (WX-UR602、WX-UR604) を本機または受信機と表記しています。
- ワイヤレス受信機 (WX-UR502、WX-UR504) を受信機と表記しています。
- ワイヤレス混合分配器 (WX-4910) を混合分配器と表記しています。
- ワイヤレスアンテナ (WX-UA695、WX-4950A、WX-4965、WX-6970) をアンテナと表記しています。
- ワイヤレスマイクロホン (WX-UT610、WX-UT630、WX-4100B、WX-4212C、WX-4300B、WX-4360B、WX-4370B、WX-4400C、WX-4600、WX-4700、WX-4800) をワイヤレスマイクと表記しています。

記号について

本書では、以下の記号を用いて説明しています。



：該当する機能を使用するにあたり、制限事項や注意事項が書かれています。



：使用上のヒントが書かれています。

本製品について

本機は業務用機器です。

- 本機は子供が居る可能性がある場所での使用には適していません。
- 一般の人が容易に触れることができる場所への設置はしないでください。
- 本製品（付属品含む）に表示の記号は以下を示しています。



直流



機能接地



警告 ●本装置を住宅環境で使用すると無線障害を引き起こす可能性があります。

もくじ

はじめに

はじめに	2
商品概要	2
接続できるワイヤレス機器	2
付属品をご確認ください	2
免責について	2
著作権について	3
略称について	3
記号について	3
本製品について	3
安全上のご注意	5
使用上のお願い	8
各部の名前とはたらき	10
前面	10
後面	11

設置・接続・設定

設置のしかた	12
設置上のお願い	12
ラックへの取り付けかた	14
接続のしかた	15
接続について	15
2チャンネル (4チャンネル)	
ダイバーシティ受信方式の場合	16
各チャンネル出力およびミキシング出力の場合	17
設定のしかた	18
設定上のご注意	18
フィールド・アンテナ感度を設定する	19
グループ・チャンネルを設定する	21
[A] 操作ロックを設定する	23
[B] 音量レベルロックを設定する	24
[C] 待機時混信低減機能を設定する	25
[D] 受信レベルを確認する	26
[E] 受信状況を確認する (スキャン機能)	27
[F] スケルチを一時的に解除する	28
[CLR] 工場出荷設定に戻す (メモリークリアー機能)	29

使いかた

使いかた	30
操作のしかた	30
ワイヤレスマイクの電池残量を確認する	31

その他

故障かな!?	32
仕様	33
保証とアフターサービス	34

安全上のご注意

必ずお守りください

人への危害、財産の損害を防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。

■ 誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を区分して、説明しています。



警告

「死亡や重傷を負うおそれがある内容」です。



注意

「軽傷を負うことや、財産の損害が発生するおそれがある内容」です。

■ お守りいただく内容を次の図記号で説明しています。(次は図記号の例です)



してはいけない内容です。



実行しなければならない内容です。



警告



電源プラグは、根元まで確実に差し込む

差し込みが不完全ですと、感電や発熱による火災の原因になります。
傷んだプラグやゆるんだコンセントは使用しないでください。

電源プラグのほこり等は定期的にとる

プラグにほこりなどがたまると、湿気などで絶縁不良となり、火災や感電の原因になります。
電源プラグを抜き、乾いた布で拭いてください。

配線は正しく行う

ショートや誤配線により、火災や感電の原因となります。

工事は販売店に依頼する

工事には技術と経験が必要です。火災、感電、けが、器物損壊の原因となります。
●必ず販売店に依頼してください。

ねじやボルトは指定されたトルクで締め付ける

落下によるけがや事故の原因となります。

付属品・オプションは、指定の製品を使用する

本体に誤って指定外の製品を使用すると、火災や事故を起こす原因になります。

持ち運ぶときはコード類をすべて抜く

コードに足をかけたりして、けがの原因となります。また、コードが傷つき火災や感電の原因となります。

安全上のご注意（つづき）

⚠ 警告



禁止

電源コード・プラグが破損するようなことはしない

（傷つける、加工する、熱器具に近づける、無理に曲げる、ねじる、引っ張る、重いものを載せる、束ねるなど）

傷んだまま使用すると、火災・感電・ショートの原因になります。

- コードやプラグの修理は、販売店にご相談ください。

コンセントや配線機器の定格を超える使い方や、交流100 V以外での使用はしない

たこ足配線等で、定格を超えると、発熱による火災の原因になります。

雷のときは工事、配線をしない

火災や感電の原因となります。

本機の電源を入れたまま工事、配線をしない

火災や感電の原因となります。

電源プラグやコネクタを抜くときは、コードを引っ張らない

コードが傷つき、火災や感電の原因になります。

- 必ずプラグやコネクタを持って抜いてください。

湿気やほこりの多い場所に設置しない

火災や感電の原因となります。

屋外や軒下に設置しない

取付部が劣化し、落下によるけがや事故の原因となります。

不安定な場所に置かない

落ちたり、倒れたりして、けがの原因になります。

異物を入れない

水や金属が内部に入ると、火災や感電の原因となります。

- 直ちに電源プラグを抜いて、販売店に連絡してください。



分解禁止

分解や改造をしない

内部には電圧の高い部分があり、感電や火災の原因になります。また、使用機器を損傷することがあります。

- 内部の点検や修理などは、お買い上げの販売店にご相談ください。



水ぬれ禁止

機器の上や周囲に水などの入った容器を置かない

水などが中に入った場合、火災や感電の原因となります。

- 直ちに電源プラグを抜いて、販売店に連絡してください。

水をかけたり、ぬらしたりしない

- 火災や感電の原因となります。

- 直ちに電源プラグを抜いて、販売店に連絡してください。



水場使用禁止

水場で使用しない

火災や感電の原因になります。



ぬれ手禁止

ぬれた手で、電源プラグの抜き差しはしない

感電の原因となります。

警告



接触禁止

雷が鳴り出したら、本機や電源プラグには触れない
感電の原因になります。

電源プラグ
を抜く

異常があったときは、電源プラグを抜く

- 内部に金属や水などの液体、異物が入ったとき
- 落下などで外装ケースが破損したとき
- 煙や異臭、異音などが出たとき

そのまま使うと、火災・感電の原因になります。

- 本機を電源コンセントの近くに設置し、電源プラグに簡単に手が届くようにしてください。
- 本機を電源から完全に遮断するには、電源プラグを抜く必要があります。
- 販売店に相談してください。

長期間使用しないときや、お手入れのときは、本機の電源プラグをコンセントから抜く
火災や感電の原因になります。

注意



禁止

本機の放熱を妨げない

- 押し入れや本箱など、狭いところに入れないでください
- テーブルクロスを掛けたり、じゅうたんや布団の上に置かないでください
- 通風孔やファンがある場合は、ふさがないようにしてください
- 横倒し、逆さまにしないでください

内部に熱がこもり、火災の原因になります。

使用上のお願い

「安全上のご注意」に記載されている内容とともに、以下の事項をお守りください。

本機は屋内専用です

- 長時間直射日光のあたるところや、冷・暖房機の近くには設置しないでください。変形・変色または故障・誤動作の原因になります。
- 水滴または水しぶきのかからない状態で使用してください。花瓶などの液体の入ったものを機器の上に置かないでください。

使用温度範囲について

- 0℃～45℃です。この温度範囲以外で使用すると、故障または誤動作の原因となります。

電源スイッチについて

- [電源]スイッチを「切」にしても電源からは遮断されません（[電源]表示灯が消灯しても、電源が遮断されているとは限りません）。電源を遮断する場合は、電源コンセントから本機の電源プラグを抜いてください。

電源について

- 電源電圧はAC100V（50Hz／60Hz）です。十分な容量のある電源に接続してください。
- 電源コードは電源に必ず次のいずれかの方法で接続してください。
 - ・本機を電源コンセントの近くに設置し、電源プラグに容易に手が届く状態にする。
 - ・接点距離が3mm以上ある分電盤のブレーカーに接続する。ブレーカーは保護アース導体を除く主電源のすべての極が遮断できるものを使用すること。

ワイヤレスマイクについて

- ワイヤレスマイクの周波数は、受信機の周波数と合わせて使用してください。
- ワイヤレスマイクとワイヤレスマイクの間は、50cm以上離してご使用ください。
- ワイヤレスマイクとアンテナの距離は、到達距離の最小値以上（19ページ）離してご使用ください。近づきすぎると、混信を起こします。

ワイヤレスマイクの電池電圧・残量表示について

- ワイヤレスマイクとアンテナの距離が離れ受信電波が低下した場合やワイヤレスマイクとアンテナが近く混信する場合など、ワイヤレスマイクから送られてくる電池残量のデータが読み取れないときがあります。これらの表示機能は、電波を安定して受信できる範囲内でご使用ください。ワイヤレスマイクからアンテナまでの距離（電波の到達距離）については、「フィールド・アンテナ感度を設定する」（19ページ）をお読みください。
- 大きな受信電波の変動や大きな音声などがワイヤレスマイクに入力されると電池残量のデータが読み取れない場合があります。

ノイズについて

- 電灯器具などの電気機器の電源を入／切する際に発生するノイズの影響で、受信機から大きなノイズ音が発生する場合があります。また、蛍光灯やOA機器、監視カメラ、業務用カメラなどもノイズ源となります。以下に示す処置を行うことにより、ノイズ音を低減できます。
 - ・ノイズ源（電源スイッチで電源を入／切する機器および電源用のケーブル）からワイヤレス機器および同軸ケーブルを遠ざける。
- 同軸ケーブルを他の配線と束ねて引き回さないでください。引き回すとノイズが発生することがあります。

電源スイッチを入／切するときは

- パワーアンプや周辺機器の電源を切ってから行ってください。クリックノイズが発生し、スピーカーや周辺機器を破損する恐れがあります。

長期間使用しない場合は

- 電源スイッチを「切」にして、電源プラグをコンセントから抜いてください。

結露について

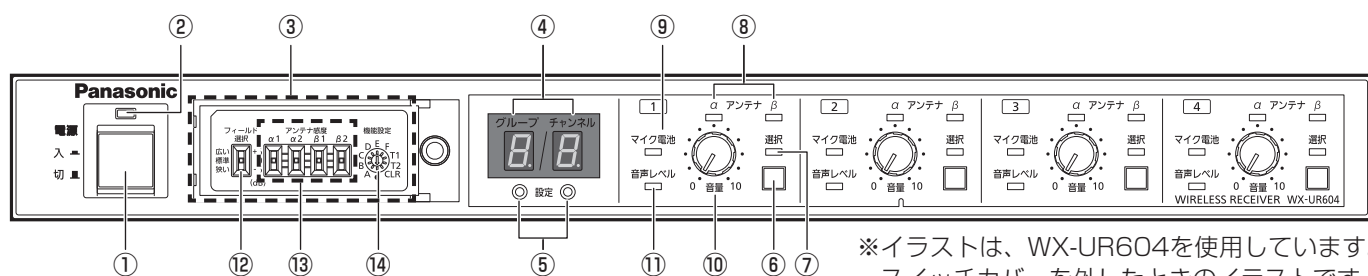
- 結露は、故障の原因になりますので注意してください。以下のようなときは結露が発生しやすくなります。
 - ・ 湿度が高いとき
 - ・ 冷たい場所から、温度や湿度が高い場所に移動したとき
- 結露が発生した場合は、1～2時間程度放置して、結露がなくなったことを確認してから電源を入れてください。

お手入れについて

- 電源を切ってから行ってください。けがの原因になります。
- お手入れは必ず乾いたやわらかい布をご使用ください。
- シンナーやベンジンなど、揮発性のものは使用しないでください。
- 化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書きに従ってください。
- ほこりが多く付着したときは、掃除機などでほこりを吸い取るように取り除いてください。

各部の名前とはたらき

前面



①電源スイッチ【電源 入／切】

- 電源を入／切します。押し込んだ状態が「入」です。
- 電源スイッチを「切」にしても、わずかに電力を消費します。

②電源表示灯（緑色）

- 電源スイッチを「入」にすると、点灯します。

③スイッチカバー

- ねじをゆるめてスイッチカバーを外すと、内部に本機を設定するためのスイッチ（⑫～⑭）があります。通常はカバーを取り付けたままご使用ください。

④グループ／チャンネル表示灯 【グループ／チャンネル】（緑色）

- チューナー選択ボタンで選択しているチューナーが受信するグループ／チャンネルを表示します。

⑤グループ／チャンネル設定ボタン【設定】

- チューナー選択ボタンで選択しているチューナーの受信するグループ／チャンネルを変更するときに押します。
工場出荷設定：グループ0（受信OFF）

⑥チューナー選択ボタン

- チューナーの設定状態を、グループ／チャンネル表示灯に表示する際に押します。

⑦チューナー選択表示灯【選択】（橙色）

- チューナー選択ボタンを押すと点灯します。

⑧受信表示灯【アンテナ α 、 β 】（緑色）

- アンテナから電波を受信すると点灯します。

⑨電池残量表示灯【マイク電池】

- ワイヤレスマイクから送られてくる電池残量データを受信すると点灯（緑色／橙色／赤色）します。（31ページ）

⑩音量調節つまみ【音量 0～10】

- 好みの音量に調節できます。

⑪音声レベル表示灯【音声レベル】

- 受信中のワイヤレスマイクの音声出力レベルによって点灯（緑色／橙色／赤色）します。
出力なし～-46 dB：消灯
-46 dB～-16 dB：緑色に点灯
-16 dB～-6 dB：橙色に点灯
-6 dB～過大出力時：赤色に点灯

⑫フィールド選択スイッチ（スイッチカバー内） 【フィールド選択 広い／標準／狭い】

- アンテナで受信するフィールドの大きさ（感度）をリモートコントロールします。（19ページ）
工場出荷設定：標準

⑬アンテナ感度スイッチ（スイッチカバー内） 【アンテナ感度（dB）+6 / 0 / -6】

- 各アンテナ（ $\alpha 1$ 、 $\alpha 2$ 、 $\beta 1$ 、 $\beta 2$ ）の感度を選択します。使用する同軸ケーブルの種類や長さによって、アンテナ感度をリモートコントロールします。（19ページ）
工場出荷設定：0

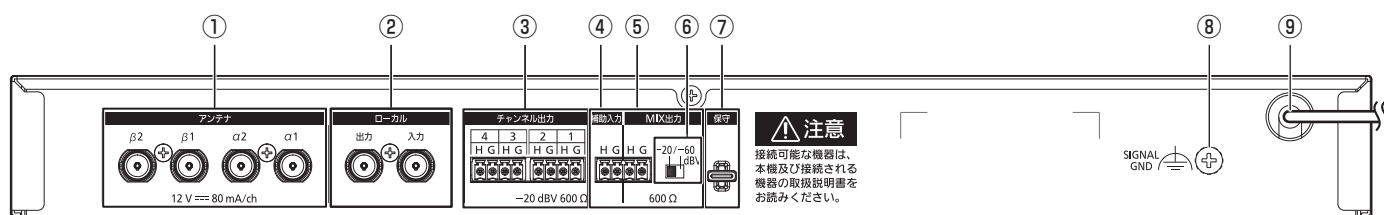
⑭機能設定ロータリースイッチ（スイッチカバー内） 【機能設定、A、B、C、D、E、F、T1、T2、CLR】

- 本機のさまざまな機能を設定するときに、モードを切り換えます（23～29ページ）。
- 本スイッチを操作すると、全チューナーのモードが連動して切り換わります。

ポジション	モード
●	通常運用モード 通常はこのポジションで使用してください。
A	操作ロック設定モード
B	音量レベルロック設定モード
C	待機時混信低減設定モード
D	受信レベル表示モード
E	スキャンモード
F	スケルチ解除モード
T1	テストモード
T2	メンテナンス時に使用します。
CLR	メモリークリアーモード

工場出荷設定：●

後面



※イラストは、WX-UR604を使用しています。

①アンテナ接続コネクタ

【アンテナα1、α2、β1、β2】

- アンテナまたは混合分配器からの同軸ケーブルを接続します（すべて別売品）。

②ローカル入出力コネクタ [ローカル 出力／入力]

- 本機を増設するときに使用します。

③チャンネル出力端子

【チャンネル出力 -20 dBV 600 Ω】

- 各チューナーの音声を個別に出力します。
WX-UR602：[H：HOT] [G：GND]
2組（チャンネル1～2）
WX-UR604：[H：HOT] [G：GND]
4組（チャンネル1～4）

④ワイヤレス補助入力端子

【補助入力 -20 dBV 600 Ω】

- 本機を増設するときに使用します。
[H：HOT] [G：GND] 1組

⑤ミキシング出力端子 [MIX出力]

- 各チャンネル出力をミキシングして出力します。
- 受信機を増設するときにも使用します。
- ⑥出力レベル切換スイッチで出力レベルを切り換えることができます。
※ミキサーなど接続機器の入力へ接続する場合
-20 dBV → 接続機器側のライン入力へ接続
-60 dBV → 接続機器側のマイク入力へ接続

⑥出力レベル切換スイッチ

【600 Ω -20 dBV / -60 dBV】

- 接続機器に合わせて、ミキシング出力の出力レベルを切り換えます。

⑦保守用 USB Type-C コネクタ [保守]

⑧SIGNAL GND端子 [SIGNAL GND]

- 他機器との電位差をなくするため、各機器のSIGNAL GNDと接続します。

⑨電源コード

- AC100V 50 Hz / 60 Hz
- 電源コードは、必ず遮断装置を介した次のいずれかの方法で接続してください。
 - (1) 電源制御ユニット (WU-LP157、WU-LP407) を介して接続する。
 - (2) 電源コンセントの近くに本機を設置し、遮断装置（電源プラグ）に容易に手が届くこと。
 - (3) 3.0 mm以上の接点距離がある分電盤のブレーカーに接続する。ブレーカーは保護アース導体を除く主電源のすべての極が遮断できるものを使用する。

設置のしかた

設置上のお願い



警告

- 工事は必ず販売店に依頼してください。
工事を行う前に、「安全上のご注意」をよく読んでその指示に従ってください。接続する機器の取扱説明書も必ずお読みください。

設置工事は電気設備技術基準に従って実施してください。

本機は屋内専用です

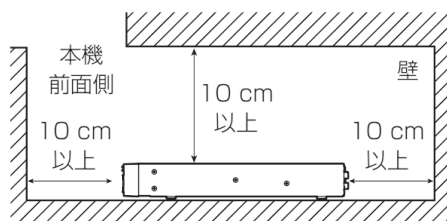
- 屋外での使用はできません。
長時間直射日光のあたるところや、冷・暖房機の近くには設置しないでください。変形・変色または故障・誤動作の原因になります。
また、水滴または水沫のかからない状態で使用してください。

工事は電源を入れないで行ってください

- 工事は、本機の電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。また本機に接続されているミキサーやアンプなどの電源も切ってから行ってください。接続時にスピーカーから大きなノイズが出て、機器の破損につながります。

設置場所について

- 本機は発熱量が非常に多い機器です。
壁や天井などの付近に設置する場合は本機の周囲から10 cm以上離して設置してください（下図参照）。



- 縦置きや傾けて設置しないでください。故障の原因となりますので水平に設置してください。

以下の場所には設置しないでください

- 直射日光の当たる場所や温風吹き出し口の近く
- 湿気やほこり、振動の多い場所
- 結露しやすい場所、温度差の激しい場所、水気（湿気）の多い場所
- ちゅう房など蒸気や油分の多い場所
- スピーカーやテレビ、磁石など、強い磁力を発生するものの近く
- 傾斜のある場所
- 塩害や腐食性ガスが発生する場所
- 本機、ケーブルなどが容易に破壊されるような場所

ラックに取り付けるときは

- 本機をラックに取り付ける場合は、必ず「ラックへの取り付けかた」（14ページ）に記載されたラックをご使用ください。
- ラック内の温度が+45℃を超えないようにしてください。内部の部品に悪影響を与え、故障の原因となります。
- 本機は、できるだけラック下側に取り付けてください。

使用電源は

- 電源電圧はAC100 V (50 Hz／60 Hz) です。十分な容量のある電源に接続してください。

電源について

- 本機は電源スイッチを「切」にただけでは電源は遮断されません。容易に電源を遮断できるように、電源コードは、必ず遮断装置を介した次のいずれかの方法で接続してください。
 - ・電源コンセントやブレーカーの近くに設置し、電源プラグを介して接続する。
 - ・3.0 mm以上の接点距離を有する分電盤のブレーカーに接続する。ブレーカーは、保護アース導体を除く電源のすべての極が遮断できるものを使用すること。

静電気について

- 静電気による損傷を防止するために、設置工事の前に、アースの取れた金属製のものに触れて身体に帯電した静電気を放電してください。

ねじの締め付けについて

- ねじは指定のトルクにしたがい、まっすぐ締めてください。締めたあとは、目視にて、がたつきがなく、しっかりと締められていることを確認してください。
- インパクトドライバーや電動ドライバーは、クラッチ付のものであってもトルク管理が困難なため、使用すると取り付け部の破損の原因になりますので、使用しないでください。

強い衝撃を与えない

- 本機に強い衝撃を与えないでください。本機が破損するおそれがあります。

雑音源を避けてください

- 電灯線などの雑音源に同軸ケーブルや電源ケーブル、音声ケーブルを近づけると、ノイズが発生する場合があります。そのときは、雑音源からできるだけ離すように配線するか、本機の位置を変えてください。

アンテナの設置は

- アンテナはダイバーシティ方式で受信可能なように、必ず α 系、 β 系各1本以上で計2本以上、偶数本で使用してください。
- 確実に受信するために、アンテナはワイヤレスマイクから直視できる位置に設置してください。アンテナ付近に障害物があると、到達距離が短くなることがあります。

近くの妨害電波について

- 近くに別のワイヤレスシステムや、高周波を使う機器がないことを確認してください。やむをえず妨害電波の近くで使用する場合は、周波数が重複しないようにチャンネルプランを策定するか、ワイヤレスマイクとアンテナの距離（到達距離）を短くしてご使用ください（到達距離は雑音源の大きさに左右されます）。また、テレビ局や携帯電話基地局などから強い電波が出ている場合にも、到達距離が短くなることがあります。

接続について

- 本機に接続するアンテナは、WX-UA695、WX-4950A、WX-4965、WX-4970です。混合分配器は、WX-4910です（すべて別売品）。

同軸ケーブルについて

アンテナ、受信機、混合分配器と接続する同軸ケーブルはなるべく5C-2V、5C-FB、5D-2V、5D-FBなどの同軸ケーブルをご使用ください。太い同軸ケーブルを使用すると機器に接続できない場合があります。

「BNCコネクタと同軸ケーブルについて」（15ページ）、「フィールド・アンテナ感度を設定する」（19ページ）もお読みください。

ラックへの取り付けかた

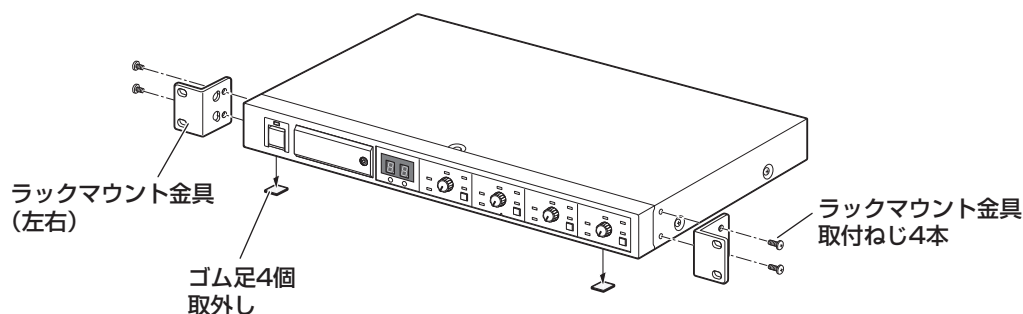
本機は、ラックに取り付けて使用できます。

本機を取り付けるラック (別売品) は、次のいずれかを使用してください。

スタンダードラック : WU-RS80収納ユニット数29U (当社製)。従来品のWU-RS71もお使いいただけます。

ロングラック : WU-RL85収納ユニット数41U (当社製)。従来品のWU-RL76もお使いいただけます。

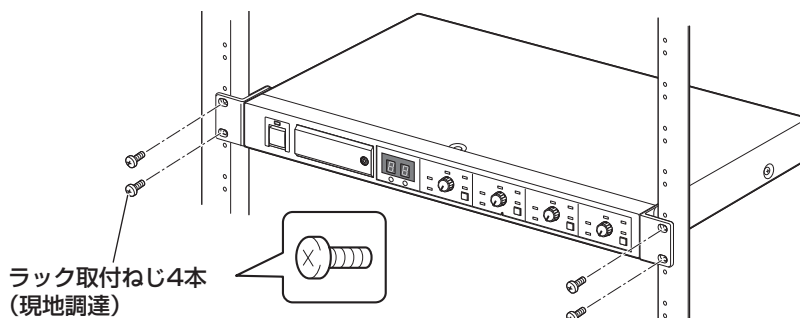
EIA規格相当品 : EIA19型、奥行き450 mm以上のもの



[STEP1] 本機底面のゴム足 (4個) を外します。

[STEP2] 本機両側面に付属のラックマウント金具を付属のラックマウント金具取付ねじ (4本) で取り付けます。

※ラックマウント金具取付ねじ締付トルク : 0.88 N・m ~ 1.08 N・m (9.0 kgf・cm ~ 11.0 kgf・cm)



[STEP3] 本機をラックに取り付けます。

※ラック取付ねじ推奨サイズ : M5 × 12 mm 以上

※ラック取付ねじ締付トルク : 2.0 N・m ~ 2.4 N・m (20.5 kgf・cm ~ 24.5 kgf・cm)

※ラック取付ねじ推奨品 : YBSNG003 (株式会社ワイ・ビー・エス製)



重要

- ラック内の温度は、+45℃を超えないようにしてください。
- 発熱量の多い機器 (電力増幅ユニットやパワーアンプなど) の近くに、本機を設置しないでください。やむをえず近くに設置する場合は、上下に1U (44 mm) 以上の間隔をあけてください。
- 熱に弱い機器を同じラックに取り付けるときは、本機より下側に取り付けてください。
- ラックは通気性の良い場所に設置してください。ラック内に熱がこもるときはラック内の温度が+45℃以上にならないように換気対策を行ってください。

接続のしかた

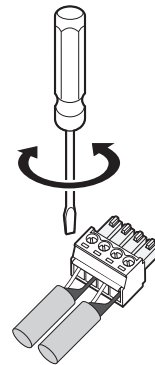
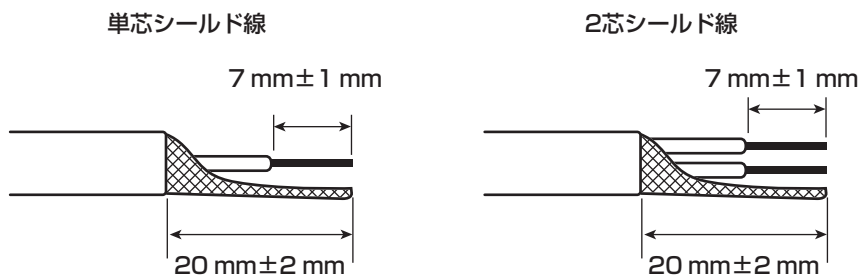
接続について

●BNCコネクタと同軸ケーブルについて

- アンテナ、受信機、混合分配器とを接続する同軸ケーブルはなるべく5C-2V、5C-FB、5D-2V、5D-FBなどの同軸ケーブルをご使用ください。
- 太い同軸ケーブルを使用すると機器に接続できない場合があります。
- 同軸ケーブルによる高周波信号の通過損失は、アンテナから受信機（または混合分配器）までの合計で8 dB以内（260 MHzにて）としてください。同軸ケーブルを中継する場合、1中継あたりの通過損失は約1 dBとして考えてください。
- 同軸ケーブルやBNCコネクタなどはメーカーにより仕様が異なるので、メーカーの仕様書を確認してご使用ください。
- 同軸ケーブルの変換や中継を行う場合、必ずBNCコネクタやN型コネクタなどの高周波用コネクタを使用してください。コネクタを使用せず同軸ケーブルを直接接続すると、受信感度の大幅な低下や混信、ノイズの発生などが起こることがあります。
- 低損失タイプの同軸ケーブルを使用する場合は、専用コネクタになる場合がありますので、ご使用になるケーブルのメーカーにお問い合わせください。
- BNCコネクタと同軸ケーブルの処理は、専用圧着工具などを使用して確実に行ってください。
- 5C-2V、5C-FB、5D-2V、5D-FBなどより太い同軸ケーブルは機器への接続が困難なため、長さ1 mほどの細い同軸ケーブル（5C-2V、5C-FB、5D-2V、5D-FBなど）に変換してください。
- 受信機を複数台使用する場合は、混合分配機（WX-4910）の取扱説明書をお読みください。

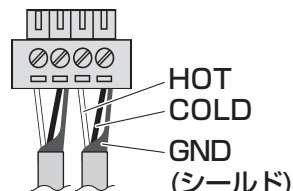
●コネクタ式端子台への接続

- 着脱可能なコネクタ式端子台（本体に取付済み）と音声ケーブルは、下図を参考にして以下のように接続してください。マイナスドライバーを使用して付属のコネクタ式端子台のねじを緩め、線材の被覆をはがし、導体をしっかりよってから、線材の先端をコネクタ式端子台に差し込み、コネクタ式端子台のねじを締めます。



- コネクタ式端子台のケーブルは、以下に留意して加工してください。

- 推奨線材：AWG28～AWG16（はんだ上げ線は使用しないでください）
- 剥離する被覆の長さ：7 mm ± 1 mm、シールド線：20 mm ± 2 mm
- 端子台のねじの直径：φ2 mm
- 線材が確実に接続されていることを確認してください。
- 接続先がバランス入力の場合は図のように「HOT」は[H：HOT]へ、「COLD」と「GND」は束ねて端子台の[G：GND]へ接続してください。（「COLD」と「GND」を束ねるときは、線材の太さを考慮してください。）



- 接続用の線材はノイズが出る場合がありますので、シールド線をご使用ください。
- より線、シールド線は、むきしろ部分に半田めっきをしないでください。経年変化などで接触不良が発生する可能性があります。

接続のしかた (つづき)

●受信機への接続

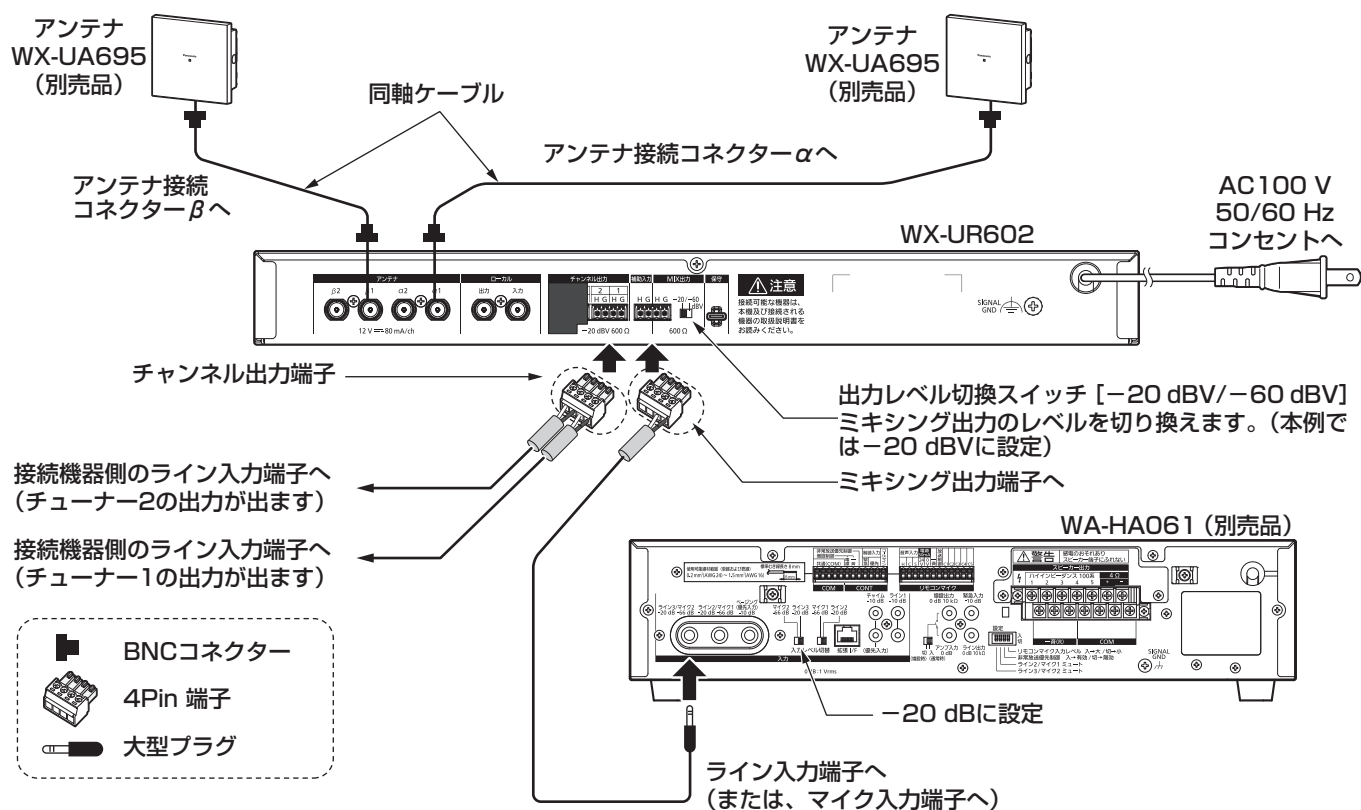
- ・アンテナは α 、 β 各1本ずつ、計2本以上偶数本必要です。(混合分配器 (WX-4910) にアンテナを接続する場合も同じです。)
- ・空いているアンテナ接続コネクタやローカル入出力コネクタに終端抵抗を接続しないでください。過電流により、機器が故障する場合があります。
- ・受信機を複数台使用する場合は、混合分配機 (WX-4910) の取扱説明書をお読みください。

●受信機と接続する機器 (アンプなど) への接続

- ・受信機と接続する機器のコネクタやプラグについては、接続する機器の取扱説明書を参照してください。

2チャンネル (4チャンネル) ダイバーシティ受信方式の場合

WX-UR602を1台使用した例です。4チャンネルの場合はWX-UR604を使用します。



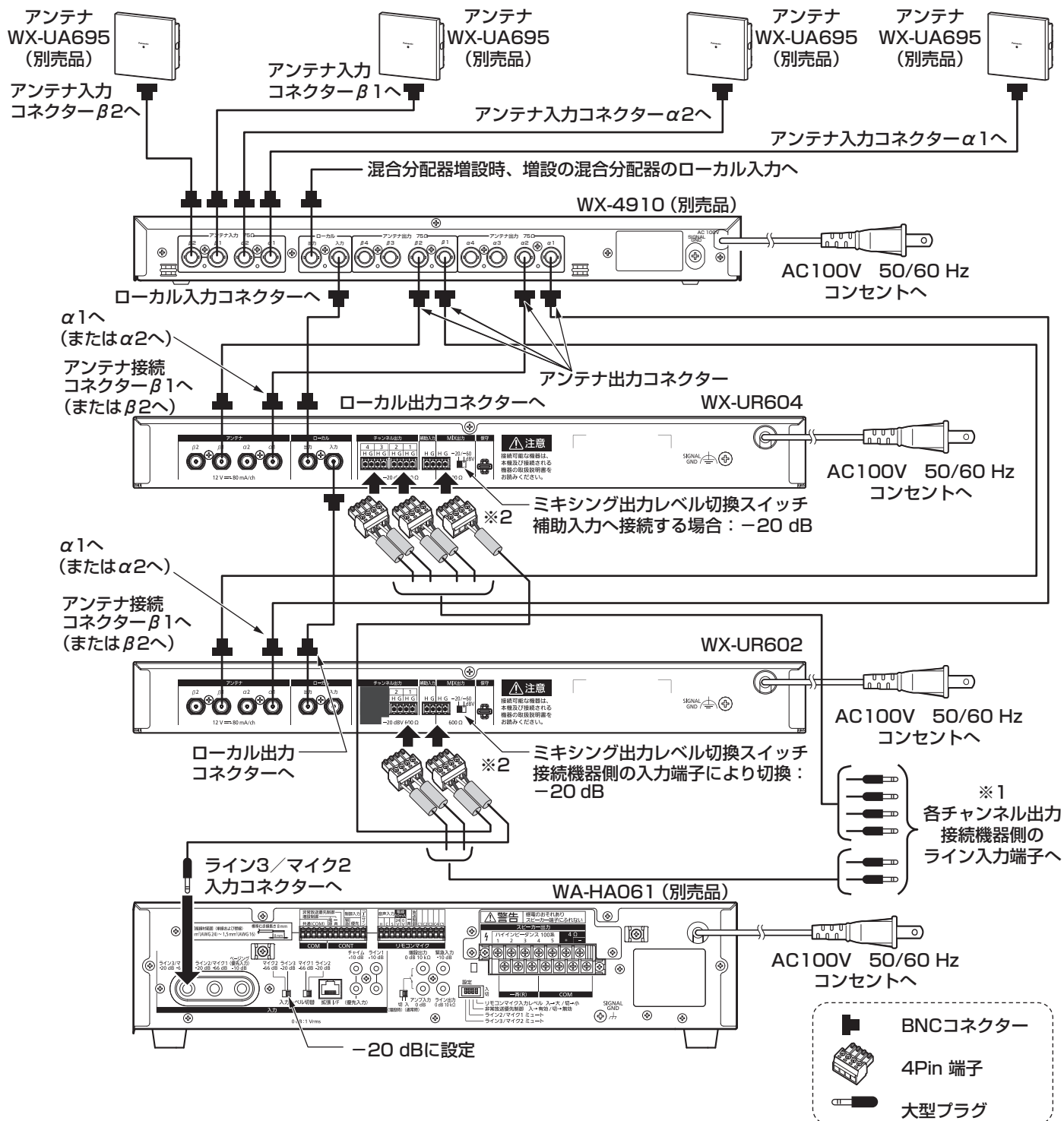
- アンテナは α 、 β 各1本ずつ、計2本以上偶数本必要です。
- 大型プラグの接続については、接続する側の機器の取扱説明書を参照してください。



- 終端抵抗は接続しないでください。過電流により、機器が故障します。

各チャンネル出力およびミキシング出力の場合

WX-UA695を4本、WX-4910、WX-UR602、WX-UR604をそれぞれ1台使用した例です。



※1 各チャンネル出力の場合の接続

※2 ミキシング出力の場合の接続 (ミキシング出力コネクタ：WX-UR604のチューナー1～4およびWX-UR602のチューナー1、2の出力をミキシングして出力します)



●ローカル入出力を接続したシステム構成の場合、ワイヤレスマイクの電源を切ってから受信機系の電源をお切りください。ワイヤレスマイクを受信中に受信機・混合分配器の電源を切ると、大きなノイズが出力されることがあります。

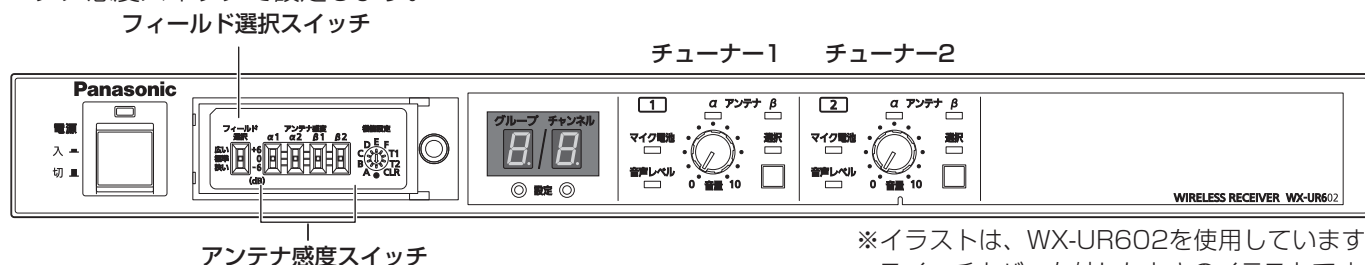
設定のしかた

設定上のご注意

- 同時に使用するワイヤレスマイクは、すべて同じグループとし、そのグループの中ですべて異なるチャンネルに設定してください（同グループ、異チャンネル）。
- 1本のワイヤレスマイクは、1つのチューナーだけで受信するように設定してください。複数のチューナーを同じグループの同じチャンネルに設定すると、ノイズの原因になります。また本機では、チューナーどうしが0.125 MHzの隣接した周波数となるようなグループ・チャンネル設定を禁止しています。詳しくは「グループ・チャンネルを設定する」（21ページ）をご確認ください。
- B型RAMSAのワイヤレスマイクはB型パナソニックのワイヤレスマイクとトーンスケルチ周波数が異なるため受信できません。
- 次の使用条件下で十分に注意して使用した場合は、7波使用も可能です。
 - ・ワイヤレスマイクと受信機間およびワイヤレスマイクとアンテナ間を5 m以上離す。
 - ・ワイヤレスマイクとワイヤレスマイクの間は、50 cm以上離す。
 - ・隣り合った部屋ではワイヤレスマイクを使用しない。
 - ・受信機および混合分配器のフィールド選択スイッチのポジションを「標準」または「狭い」に設定して使用する。
- 「フィールド選択スイッチ」「アンテナ感度スイッチ」「機能設定ロータリースイッチ」「出力レベル切換スイッチ」の各スイッチは確実に切り替えてご使用ください。

フィールド・アンテナ感度を設定する

- アンテナが受信するフィールドの大きさと、各アンテナの感度を個別に設定します。
- フィールドとアンテナ感度は、各アンテナを直接接続した受信機や混合分配器のフィールド選択スイッチとアンテナ感度スイッチで設定します。



※イラストは、WX-UR602を使用しています。
スイッチカバーを外したときのイラストです。

- スイッチカバー内のフィールド選択スイッチ、アンテナ感度スイッチを設定します。
[フィールド選択スイッチ]…… アンテナ入力： $\alpha 1/\alpha 2/\beta 1/\beta 2$ に接続されたすべてのアンテナの感度をリモートコントロールします。
[アンテナ感度スイッチ]…… アンテナ入力： $\alpha 1/\alpha 2/\beta 1/\beta 2$ に接続された個々のアンテナの感度をリモートコントロールします。

下表を参考に、それぞれのスイッチを設定してください。

使用場所と各スイッチの設定例			校庭	体育館	教室	パチンコ店	会議室	宴会場	カラオケルーム
同軸ケーブル長と推奨同軸ケーブル	使用範囲 アンテナからワイヤレスマイクまでの距離	最大 ～ 最小	100 m ～ 15 m	30 m ～ 3 m	20 m ～ 2 m	15 m ～ 2 m	15 m ～ 2 m	20 m ～ 2 m	8 m ～ 1 m
同軸ケーブル： 30 m以内 5D-2V、5C-2V	フィールド選択 スイッチ	広い	●						
		標準		●		●	●	●	
		狭い			●				●
	アンテナ感度 スイッチ	+6 dB							
		0 dB	●	●	●				
		-6 dB				●	●	●	●
同軸ケーブル： 80 m以内 5D-2V、5C-2V	フィールド選択 スイッチ	広い	●						
		標準		●		●	●	●	
		狭い			●				
	アンテナ感度 スイッチ	+6 dB	●	●	●				
		0 dB				●	●	●	
		-6 dB							
同軸ケーブル： 100 m以内 5D-FB、5C-FB	フィールド選択 スイッチ	広い	●						
		標準		●		●	●	●	
		狭い			●				
	アンテナ感度 スイッチ	+6 dB	●	●	●				
		0 dB				●	●	●	
		-6 dB							
同軸ケーブル： 150 m以内 8D-FB、7C-FB	フィールド選択 スイッチ	広い	●						
		標準		●		●	●	●	
		狭い			●				
	アンテナ感度 スイッチ	+6 dB	●	●	●				
		0 dB				●	●	●	
		-6 dB							

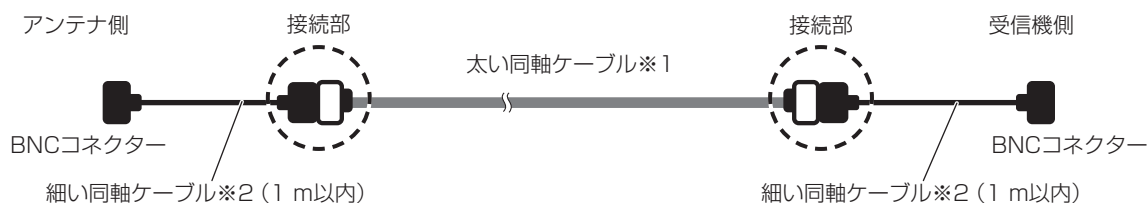
設定のしかた (つづき)



- 実動作試験で音切れが多く発生する場合は、アンテナ感度スイッチを1ポジション上げてください。
[例] $-6\text{ dB} \rightarrow 0\text{ dB}$
- アンテナ感度スイッチが「+6 dB」のポジションにあり、それ以上上げられない場合は、フィールド選択スイッチを1ポジション上げ（狭い→標準、標準→広い）、アンテナ感度スイッチで調節してください。
- アンテナ感度のリモートコントロールは、アンテナWX-UA695、WX-4950A、WX-4965、WX-4970を直接接続した受信機、混合分配器のフィールド選択スイッチ、アンテナ感度スイッチでコントロールします。

注：5C-2V、5C-FB、5D-2V、5D-FBなどより太い同軸ケーブルは外径が太いため、直接アンテナ（WX-UA695、WX-4950A、WX-4965、WX-4970）に接続できないので、下記を参考に同軸ケーブル変換を行ってください。

- ・ 接続部分は他の金属部と接触しないよう、自己融着テープやビニールテープなどを巻いてください。
- ・ 各同軸ケーブルに使用する接続用コネクタは、同軸ケーブルに合ったコネクタをご使用ください。
- ・ 同軸ケーブルによる高周波信号の通過損失は、アンテナから受信機（または混合分配器）までの合計で8 dB以内（260 MHzにて）としてください。同軸ケーブルを中継する場合、1中継あたりの通過損失は約1 dBとして考えてください。



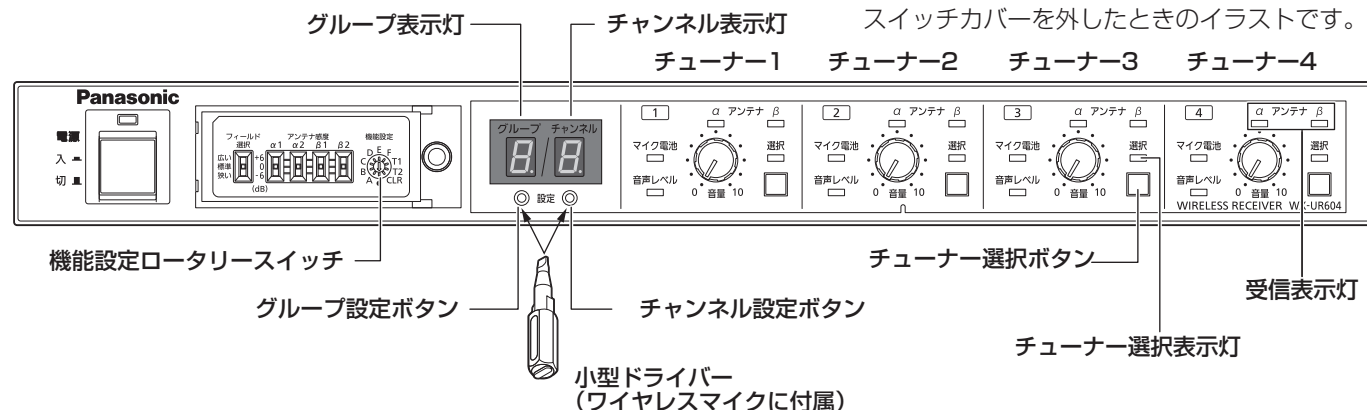
※1 5C-2V、5C-FB、5D-2V、5D-FBなどより太い同軸ケーブル

※2 5C-2V、5C-FB、5D-2V、5D-FBなど

WX-4950A、WX-4970はBNCコネクタを使用せず、直接接続が可能です。

グループ・チャンネルを設定する

※イラストは、WX-UR604を使用しています。
スイッチカバーを外したときのイラストです。



- [STEP1] スイッチカバー内の機能設定ロータリースイッチを [●] の位置に合わせます。
- [STEP2] 設定するチューナーのチューナー選択ボタンを押し、チューナー選択表示灯を点灯させます。
- [STEP3] グループ／チャンネル表示灯を確認しながら、ワイヤレスマイクに付属している小型ドライバーでグループ／チャンネル設定ボタンを押し、ワイヤレスマイクと同じグループ・チャンネルに設定します。
- [STEP4] すべてのチューナーのグループ・チャンネルを、[STEP2] と [STEP3] の手順で設定します。



- 工場出荷時、すべてのチューナーはグループ0 (受信OFF) に設定されています (グループ表示灯「0」、チャンネル表示灯「-」)。使用するチューナーは必ずグループとチャンネルを設定してください。
- グループ／チャンネル設定ボタンで受信周波数を変更する際、すべてのチューナーの音声が瞬時途切れますので、ご注意ください。
- 本機は、各チューナー間のグループ／チャンネル設定が0.125 MHzの隣接した周波数になるような設定を禁止しています。

禁止された周波数のチューナーが存在する場合、全チューナーが非受信状態となります。また、以下の表示で該当するチューナーを示すので、受信周波数表 (22ページ) を確認して、正しい周波数に設定してください。

- 該当するチューナーの受信表示灯 [アンテナα、β] が速く点滅します。
- 該当するチューナーをチューナー選択ボタンで選択すると、グループ／チャンネル表示灯が点滅します。*

例) チューナー1をB11 (806.125 MHz)、チューナー2をB21 (806.250 MHz) に設定した場合、チューナー間の周波数が 0.125 MHzで隣接しているため、チューナー1・2の受信表示灯 [アンテナα・β] が速く点滅し、全チューナーが非受信状態となります。

また、チューナー1・2をチューナー選択ボタンで選択すると、グループ／チャンネル表示灯が点滅します。*

※禁止された0.125 MHzの隣接した周波数のチューナーが存在する場合でも、該当しないチューナーを選択しているときはグループ／チャンネル表示灯は点滅しません。



- 複数台の受信機を使用する場合、本機以外の受信機のチューナーとも、グループ／チャンネル設定が0.125 MHzの隣接した周波数にならないように設定してください。本機以外のチューナーと隣接しても表示灯の点滅で該当するチューナーを示さないため、受信周波数表 (22ページ) を確認して、正しい周波数に設定してください。
- 使用しないチューナーは、グループ0 (受信OFF) に設定してください。

設定のしかた (つづき)

■受信周波数表 (グループ7は7波の使用例)

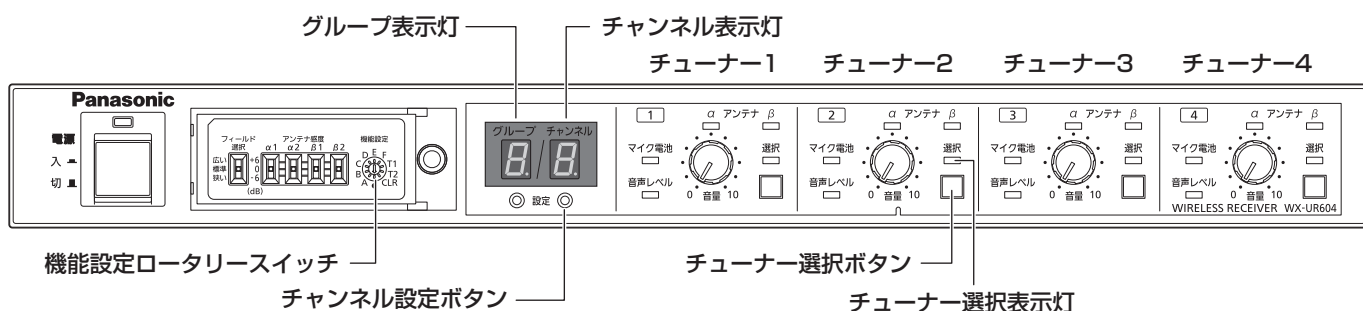
周波数 (MHz)	グループ						
	1	2	3	4	5	6	7
806.125	B11						B71
806.250		B21					
806.375	B12						B72
806.500		B22					
806.625			B31				
806.750				B41			
806.875			B32				B73
807.000		B23					
807.125	B13						
807.250						B61	
807.375			B33				
807.500				B42			B74
807.625					B51		
807.750	B14						
807.875		B24					
808.000				B43			
808.125					B52		
808.250			B34				
808.375					B53		
808.500		B25					B75
808.625			B35				
808.750					B54		
808.875		B26					
809.000	B15						
809.125				B44			
809.250			B36				
809.375				B45			B76
809.500	B16						
809.625					B55		
809.750				B46			B77



- グループ0 (受信OFF) に設定すると、グループ表示灯に「0」、チャンネル表示灯に「-」が表示され、非受信状態になります。

[A] 操作ロックを設定する

- 誤操作防止のため、グループ、チャンネルの設定をロックすることができます。
- 操作がロックされているときは、通常運用モードでグループ設定ボタンやチャンネル設定ボタンを押しても、グループ・チャンネルを変更することはできません。設定ボタンを押すとグループ表示灯とチャンネル表示灯が速く点滅し、操作ロックが設定されていることを通知します。



※イラストは、WX-UR604を使用しています。
スイッチカバーを外したときのイラストです。

- [STEP1]** スイッチカバー内の機能設定ロータリースイッチを [A] の位置に合わせます。
操作ロック設定モードとなり、グループ表示灯に **A** が表示され、各チューナーのチューナー選択表示灯が点滅します。グループ0に設定されたチューナーも選択表示灯が点滅し、選択可能です。
- [STEP2]** 設定するチューナーのチューナー選択ボタンを押し、チューナー選択表示灯を点灯させます。
- [STEP3]** チャンネル設定ボタンで操作ロックを設定します。
チャンネル設定ボタンを押すごとに [操作ロック設定] と [操作ロック解除] が切り換わります。

操作ロック	表示灯の内容		動作
	グループ	チャンネル	
操作ロック設定	A		● 通常運用モードでのグループ設定ボタン、チャンネル設定ボタンの操作が無効となり、グループ、チャンネルの変更ができなくなります。
操作ロック解除	A		● 通常運用モードでのグループ設定ボタン、チャンネル設定ボタンの操作が有効となり、グループ、チャンネルを変更することができます。

- 他のチューナーの設定を確認・変更する場合は、[STEP2] で他のチューナーを選択して設定を確認し、[STEP3] で設定を変更してください。

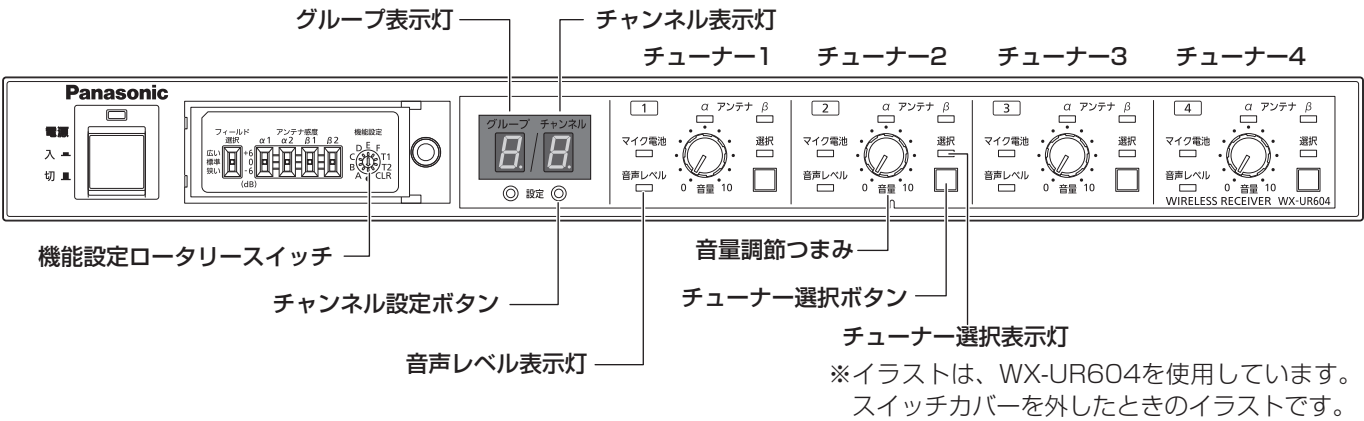
- [STEP4]** 機能設定ロータリースイッチを「●」へ戻すと、通常運用モードに戻ります。



- 「操作ロック設定モード」中は全チューナーが非受信状態となります。
- 工場出荷時設定は「操作ロック解除」です。
- 本設定は、受信機の電源を切っても保持されます。

[B] 音量レベルロックを設定する

- 誤操作防止のため、音量レベルをロックすることができます。
- 音量レベルがロックされているときは、通常運用モードでチューナーの音量調節つまみを回しても、音量レベルを上げ下げすることはできません。音量調節つまみを回すと音声レベル表示灯が赤色で速く点滅し、音量レベルがロックされていることを通知します。



- [STEP1] スイッチカバー内の機能設定ロータリースイッチを [B] の位置に合わせます。
- 音量レベルロック設定モードとなり、グループ表示灯に **b** が表示され、各チューナーのチューナー選択表示灯が点滅します。グループ0のチューナーは表示灯が点滅せず、選択できません。
- [STEP2] 設定するチューナーのチューナー選択ボタンを押し、チューナー選択表示灯を点灯させます。
- 選択したチューナーの音量レベルロック状態がチャンネル表示灯に表示され、現在の状態が確認できます。
- [STEP3] チャンネル設定ボタンで音量レベルロックを設定します。
- チャンネル設定ボタンを押すごとに [音量レベルロック設定] と [音量レベルロック解除] が切り換わります。解除から設定に切り換えるときは、音量調節つまみで音量を調節してからチャンネル設定ボタンを押します。

音量レベルロック	表示灯の内容		動作
	グループ	チャンネル	
音量レベル ロック設定	b		● 通常運用モード時、音量調節つまみによる音量レベルの上げ下げが無効となり、音量レベルの変更ができなくなります。
音量レベル ロック解除	b		● 通常運用モード時、音量調節つまみによる音量レベルの上げ下げが有効となり、音量レベルの変更をすることができます。

- 【音量レベルロックの「解除」について】
- チャンネル設定ボタンで音量レベルロックを「設定」から「解除」へ切り替えると
- 音声レベル表示灯（赤色）とチャンネル表示灯が点滅します。この状態では音量レベルロックはまだ解除されず、音量調節つまみの位置にかかわらず、ロック設定時の音量レベルが維持されます。
 - 音量レベルロック解除を完了するには、音量調節つまみを一度 [0] にしてください。
 - 音声レベル表示灯（赤色）とチャンネル表示灯が通常の表示状態へ戻り、音声レベルが変更可能となるので、音量調節つまみで音量を調節してください。
 - 他のチューナーの設定を確認・変更する場合は、[STEP2] で他のチューナーを選択して設定を確認し、[STEP3] で設定を変更してください。

- [STEP4] 機能設定ロータリースイッチを「●」へ戻すと、通常運用モードに戻ります。



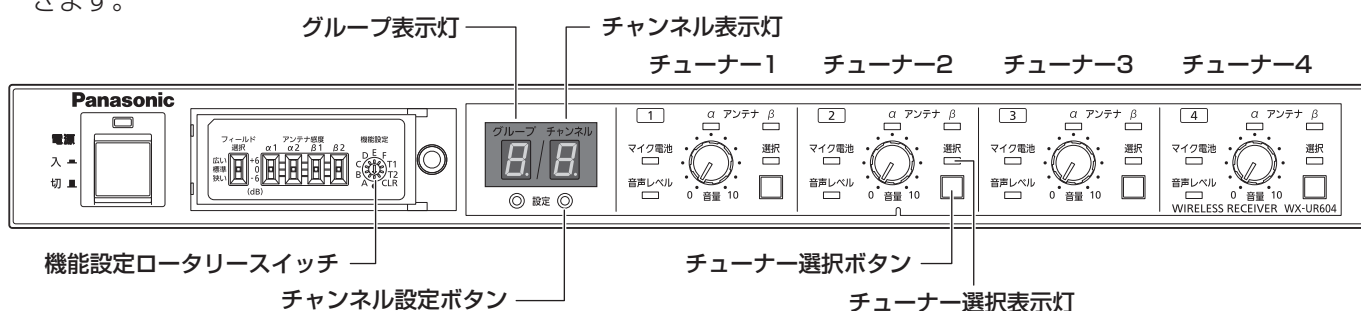
- 工場出荷時設定は「音量レベルロック解除」です。
- 本設定は、受信機の電源を切っても保持されます。



- 「音声レベルロック設定モード」中は全チューナーが非受信状態となりますが、[STEP2] で選択したチューナーは受信可能となります。
- 音声レベルロックの解除時、音声レベル表示灯（赤色）とチャンネル表示灯が点滅中、音量調節つまみを一度 [0] にする前に、以下の操作を行った場合は音量レベルのロック解除は無効となります。
 - ・他のチューナーの選択ボタンを押した場合
 - ・機能選択ロータリースwitchのポジションを変更した場合
 - ・電源がOFFとなった場合

[C] 待機時混信低減機能を設定する

- 受信待機中、遠方からの電波を瞬時受信してしまうような混信は、待機時混信低減機能を設定することで回避できます。



※イラストは、WX-UR604を使用しています。
スイッチカバーを外したときのイラストです。

[STEP1] スイッチカバー内の機能設定ロータリースwitchを [C] の位置に合わせます。

待機時混信低減機能設定モードとなり、グループ表示灯に が表示され、各チューナーのチューナー選択表示灯が点滅します。グループ0のチューナーは表示灯が点滅せず、選択できません。

[STEP2] 設定するチューナーのチューナー選択ボタンを押し、チューナー選択表示灯を点灯させます。

[STEP3] チャンネル設定ボタンで感度切換レベルを設定します。

チャンネル設定ボタンを押すごとに、[6 dB] → [12 dB] → [解除] → [6 dB] …の順に設定が切り換わります。

感度切換レベル	表示灯の内容		動作
	グループ	チャンネル	
12 dB設定			●受信待機中の受信感度を約12 dB下げ、弱く飛び込む混信を回避します。 ●一度受信すると、受信が途切れるまで受信感度は通常レベルに戻ります。 ●6 dB設定よりも効果的に混信を低減します。
6 dB設定			●受信待機中の受信感度を約6 dB下げ、微弱に飛び込む混信を回避します。 ●一度受信すると、受信が途切れるまで受信感度は通常レベルに戻ります。
解除			●待機時混信低減機能は解除されます。 ●通常の受信感度で動作します。

- 他のチューナーの設定を確認・変更する場合は、[STEP2] で他のチューナーを選択して設定を確認し、[STEP3] で設定を変更してください。

[STEP4] 機能設定ロータリースwitchを「●」へ戻すと、通常運用モードに戻ります。



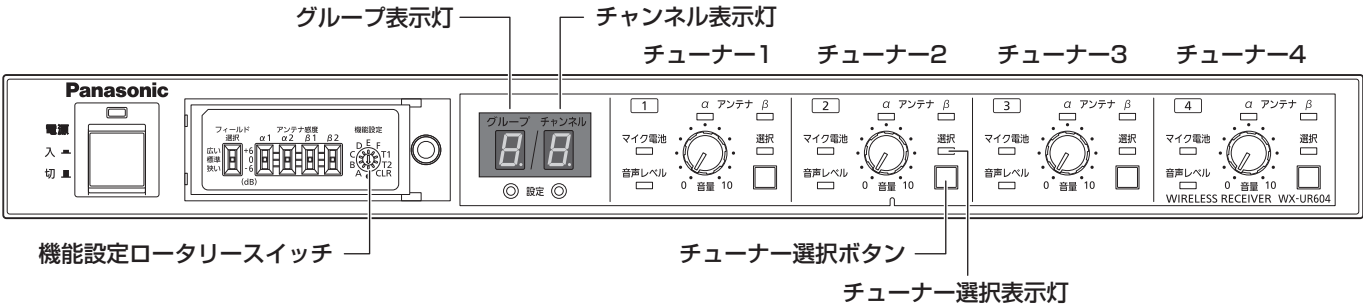
- 工場出荷時設定は「6 dB設定」です。
- 本設定は、受信機の電源を切っても保持されます。



- 「待機時混信低減機能設定モード」中は、全チューナーが非受信状態となります。
- 待機時混信低減機能を設定し、受信感度を下げた状態で混信波を受信した場合は、受信感度が一時的に通常レベルに戻って混信波を受信します。受信が途切れることで、再度受信感度が下がります。
- 混信波を頻繁に受信してしまう場合は、フィールド選択スイッチ・アンテナ感度スイッチで受信感度を下げて調整してください。(19ページ)

[D] 受信レベルを確認する

- ワイヤレスマイクからの受信状況を選択したチューナーで確認して、システムの設置状態の良否を確認できます。
- グループ表示灯にアンテナα、チャンネル表示灯にアンテナβの受信レベルを同時に7段階（スケルチ（消灯）を含む）で表示します。



※イラストは、WX-UR604を使用しています。
スイッチカバーを外したときのイラストです。

- [STEP1] スイッチカバー内の機能設定ロータリースイッチを [D] の位置に合わせます。
- 受信レベル表示モードとなり、グループ表示灯に  が表示され、各チューナーのチューナー選択表示灯が点滅します。グループ0のチューナーは表示灯が点滅せず、選択できません。
- [STEP2] 確認するチューナーのチューナー選択ボタンを押し、チューナー選択表示灯を点灯させます。
- 受信レベル表示状態となり、グループ表示灯にアンテナαの受信レベル、チャンネル表示灯にアンテナβの受信レベルが表示されます。

受信レベル表示	スケルチ	低い	やや低い	良好	高い
α系：グループ表示灯 β系：チャンネル表示灯					

- 他のチューナーで受信レベルを確認するには、[STEP2] で他のチューナーを選択します。

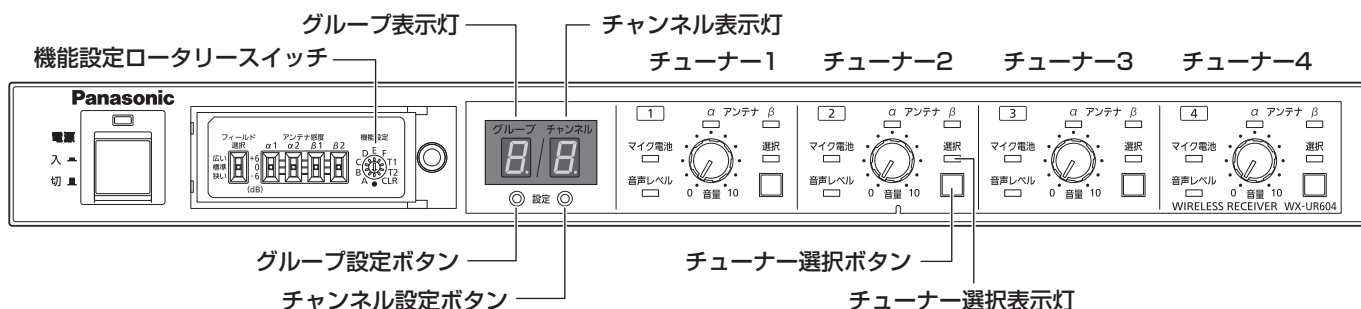
- [STEP3] 機能設定ロータリースイッチを「●」へ戻すと、通常運用モードに戻ります。



- 「受信レベル表示モード」中は全チューナーが非受信状態となりますが、[STEP2] で選択したチューナーは受信可能となります。
- 受信レベル表示の目安
 - ワイヤレスマイクを使用するエリア内で「良好」が表示される範囲でマイクを使用すると、安定した受信が得られます。
 - 「やや低い」や「高い」が表示されても使用可能ですが、以下を確認してください。
 - 「やや低い」が表示される場合は、表示される付近で音途切れが無いかを十分に確認してください。
 - 「高い」が表示される場合は、表示される付近で混信が無いかを十分に確認してください。
 - 音途切れや混信が発生する場合は、「フィールド・アンテナ感度を設定する」(19ページ) を参考にアンテナの感度を調整してください。

[E] 受信状況を確認する（スキャン機能）

- ワイヤレスマイクシステムを運用する場所の電波環境を確認するために、設定されているバンド内の全グループと全チャンネルについて、自動的にチャンネルを切り換えながらスキャンを行い、電波を受信したグループおよびチャンネルを確認することができます。
- スケルチ条件（トーンを除く）を満たした電波を受信すると、その周波数でスキャンが一時停止します。
- スキャン機能には、「グループスキャン」と「チャンネルスキャン」の2種類があります。



※イラストは、WX-UR604を使用しています。
スイッチカバーを外したときのイラストです。

- [STEP1]** スイッチカバー内の機能設定ロータリースイッチを [E] の位置に合わせます。
- スキャンモードとなり、グループ表示灯に **E** が表示され、各チューナーのチューナー選択表示灯が点滅します。グループ0のチューナーは表示灯が点滅せず、選択できません。
- [STEP2]** スキャンさせるチューナーのチューナー選択ボタンを押し、チューナー選択表示灯を点灯させます。
- 選択したチューナーのグループ／チャンネルの設定状態が、グループ／チャンネル表示灯に表示され、グループ／チャンネル表示灯のピリオドが点滅します。
- [STEP3]** グループ・チャンネルをスキャンさせます。
- グループスキャンの場合はグループ設定ボタン、チャンネルスキャンの場合はチャンネル設定ボタンを2秒以上長押しします。
 - グループ表示灯とチャンネル表示灯（チャンネルスキャンの場合はチャンネル表示灯だけ）の数字が自動的に切り換わり、スキャン中に電波を受信すると、スキャンが一時停止します。

スキャン	表示灯の内容		手順
	グループ	チャンネル	
グループスキャン	点滅	点滅	●グループ設定ボタンを2秒以上長押しします。 ●全グループについて、全チャンネルをスキャンします。スキャン中はグループ表示灯のピリオドが点滅します。
チャンネルスキャン	点滅	点滅	●チャンネル設定ボタンを2秒以上長押しします。 ●設定されたグループ内の全チャンネルについてスキャンします。スキャン中はチャンネル表示灯のピリオドが点滅します。

- スキャンを手動で一時停止するには
 - グループ設定ボタンまたはチャンネル設定ボタンを押します。
 - 一時停止中は、表示灯に表示されているグループ・チャンネルで受信できます。
- スキャンを再開するには
 - グループ設定ボタン（グループスキャンの場合）またはチャンネル設定ボタン（チャンネルスキャンの場合）を2秒以上長押しします。
- 他のチューナーでスキャンさせるには、[STEP2] で他のチューナーを選択し、以降の操作を行います。

[STEP4] 機能設定ロータリースイッチを「●」へ戻すと、通常運用モードへ戻ります。

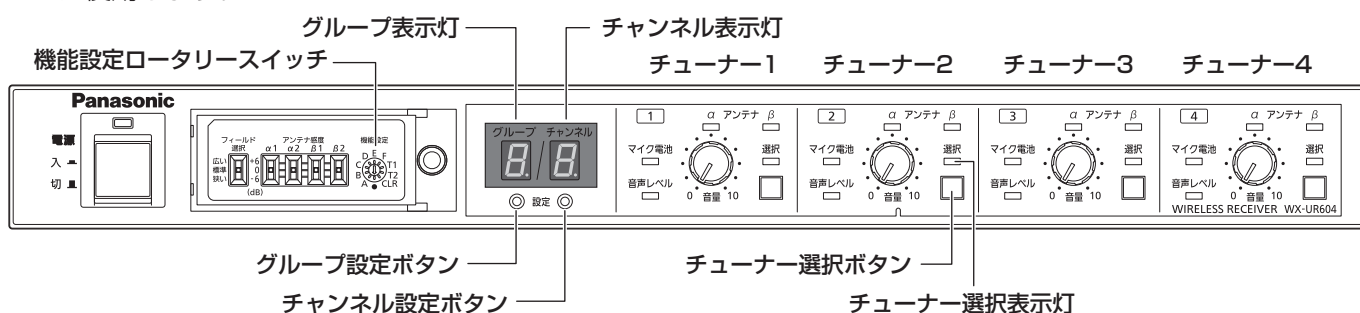
設定のしかた (つづき)



- 「スキャンモード」中は全チューナーが非受信状態となりますが、[STEP2] で選択したチューナーは受信可能となります。
- 電波の状況は刻々と変化するため、スキャン機能では一時的な状況しかとらえることができません。システム設置前の電波環境については、近隣のワイヤレスシステムの各設定を確認してください。
- 異なるグループでも同じ周波数を使っている場合、複数のグループでスキャンが一時停止します。例えば、B11のワイヤレスマイクの電源を入れた状態でグループスキャンを開始すると、B11とB71は使用している周波数が同じ(22ページ)であるため、グループスキャンはB11とB71の両方で止まります。
- スキャン機能はトーン周波数が異なる他社マイクも検出できるように、トーンスケルチ機能を解除してスキャンを行います。スキャン中および一時停止中はトーンスケルチ制御が働かないため、ワイヤレスマイクの電源ON、OFFやマイク側のグループ・チャンネル切替操作(周波数設定)などでノイズが発生するのでご注意ください。

[F] スケルチを一時的に解除する

- 通常運用中に動作しているスケルチを一時的に強制解除します。
- 現在設定しているグループ・チャンネルが、他のワイヤレスマイクに使用されているかどうかを確認するときなどに使用します。



※イラストは、WX-UR604を使用しています。
スイッチカバーを外したときのイラストです。



必ずお守りください

- ワイヤレスマイクの電源を切るなどして電波を受信しない状態でスケルチを強制解除すると、本機のチャンネル出力端子とミキシング出力端子から過大なノイズが出力されます。解除時に十分にご注意ください。
- スケルチ強制解除状態で電波受信中に、マイク側でグループ・チャンネルを変更したり、マイクの電源を切ったり、マイクの電池を抜いたりすると、ノイズで耳を痛める可能性があるので十分にご注意ください。
- 音量レベルロック機能(24ページ)が設定されていると、音量調節つまみを「0」へ回しても音量レベルは小さくなりません。過大に設定された音量で音が出続けるのでご注意ください。

[STEP1] スイッチカバー内の機能設定ロータリースイッチを[F]の位置に合わせます。

スケルチ解除モードとなり、グループ表示灯に[F]が表示され、各チューナーのチューナー選択表示灯が点滅します。グループ0のチューナーは表示灯が点滅せず、選択できません。

[STEP2] スケルチを解除させるチューナーのチューナー選択ボタンを押し、チューナー選択表示灯を点灯させます。

[STEP3] チャンネル設定ボタンでスケルチ設定を切り替えます。

チャンネル設定ボタンを押すごとに[通常] ⇄ [強制解除] となりスケルチ設定が切り換わります。

スケルチ設定	表示灯の内容		状態
	グループ	チャンネル	
スケルチ通常			●通常運用モードと同じ状態です。 ●ワイヤレスマイクからの電波を受信している場合は通常運用モードと同様に音声出力され、受信していない場合は音声出力されません。 ●機能設定ロータリースイッチを「F」に設定し、チューナー選択スイッチでチューナーを選択したときに、最初に表示される状態です。
スケルチ強制解除			●強制的にスケルチを解除している状態です。 ●ワイヤレスマイクからの電波を受信しているか否かにかかわらず、強制的に受信信号を出力します。電波がない場合は、過大なノイズが出力されます。

- 他のチューナーでスケルチを一時的に解除させるには、[STEP2] で他のチューナーを選択し、以降の操作を行います。

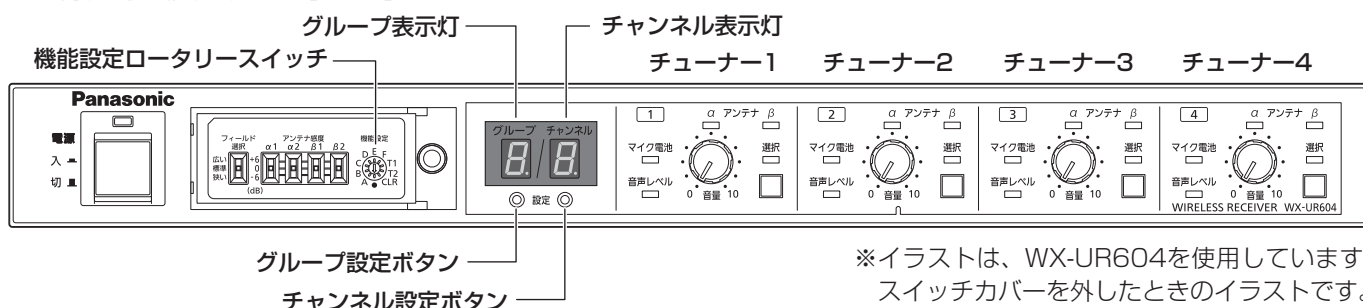
[STEP4] 機能設定ロータリースイッチを「●」へ戻すと、通常運用モードへ戻ります。



- 「スケルチ解除モード」中は全チューナーが非受信状態となりますが、[STEP2] で選択したチューナーは受信可能となります。

[CLR]工場出荷設定に戻す(メモリークリアー機能)

- グループ・チャンネルの設定や各種設定を工場出荷状態に戻します。
- 初期化される項目と設定は、以下の通りです。
 - ・チューナー選択表示灯 [チューナー1]
 - ・グループ [1]、チャンネル [1] ~ [4] (WX-UR602は [1]・[2])
 - ・操作ロック設定 [解除]
 - ・音量レベルロック [解除]
 - ・待機時混信低減設定 [6 dB]



[STEP1] スイッチカバー内の機能設定ロータリースイッチを [CLR] の位置に合わせます。

メモリークリアーモードとなり、グループ/チャンネル表示灯に / が表示されます。

[STEP2] グループ設定ボタンとチャンネル設定ボタンを2秒以上同時に長押しします。

- 初期化が開始され、グループ表示灯、チャンネル表示灯のセグメントが円を描くように回転します。
- 初期化には約5秒かかります。
- 初期化が完了すると / の表示に戻ります。

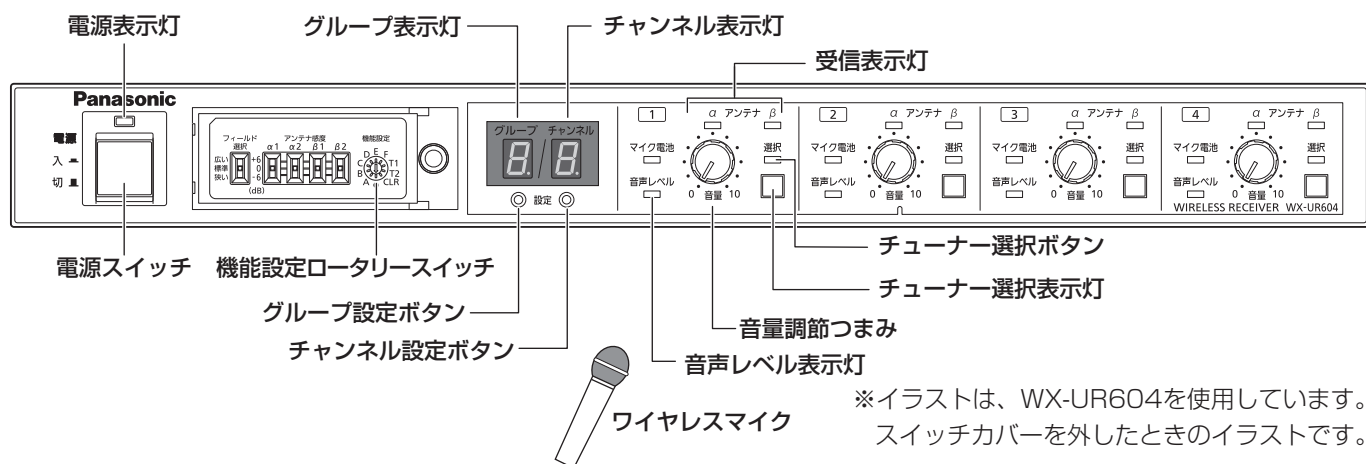
[STEP3] 機能設定ロータリースイッチを「●」へ戻すと、通常運用モードへ戻ります。



- 「メモリークリアーモード」中は全チューナーが非受信状態となります。

使いかた

操作のしかた



※イラストは、WX-UR604を使用しています。
スイッチカバーを外したときのイラストです。

[STEP1] 電源スイッチを「入」にします。

- 電源表示灯が点灯します。

[STEP2] グループ・チャンネルを設定します (21ページ)。

- 設定するチューナーのチューナー選択ボタンを押し、チューナー選択表示灯を点灯させます。
- グループ表示灯でグループを確認しながらグループ設定ボタンを押し、ワイヤレスマイクと同じグループにします。
- チャンネル表示灯でチャンネルを確認しながらチャンネル設定ボタンを押し、ワイヤレスマイクと同じチャンネルにします。

[STEP3] ワイヤレスマイク (別売品) の電源スイッチをオンにします。

- 受信表示灯が点灯します。
- ワイヤレスマイクに音声を入力すると、音声レベル表示灯が点灯します。

[STEP4] 音量を調節します。

- 音量調節つまみを調節して、お好みの音量に調節します。



- 通常使用時は、スイッチカバー内の機能設定ロータリースイッチのポジションを「●」の位置に合わせてご使用ください。
- グループ／チャンネル設定ボタンを押したとき、グループ／チャンネル表示灯が速く点滅して変更できない場合は、「[A] 操作ロックを設定する」(23ページ)を確認してください。
- 音量調節つまみを調節したとき、音声レベル表示灯が赤色で速く点滅して変更できない場合は、「[B] 音量レベルロックを設定する」(24ページ)を確認してください。
- ワイヤレスマイクのグループ、チャンネル設定については、ワイヤレスマイクの取扱説明書をお読みください。

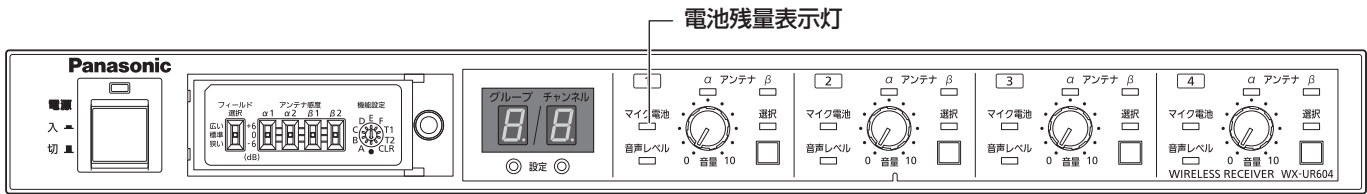


重要

- グループ／チャンネル設定ボタンで受信周波数を変更する際、すべてのチューナーの音声が瞬時途切れますので、ご注意ください。
- チューナー間でグループ／チャンネル設定が0.125 MHzの隣接した周波数に設定された場合、該当するチューナーの受信表示灯が速く点滅します。また、該当チューナー選択時にグループ／チャンネル表示灯が点滅します。「グループ・チャンネルを設定する」(21ページ)もお読みください。

ワイヤレスマイクの電池残量を確認する

ワイヤレスマイクから電池残量を示すデータを受信すると、ワイヤレスマイクの電池残量を3段階（消灯＝データなし）で表示します。



※イラストは、WX-UR604を使用しています。
スイッチカバーを外したときのイラストです。

受信機の電池残量表示とワイヤレスマイク側の電池残量の目安は、以下のようになっています。（25℃連続使用）

- ワイヤレスマイクが使用する電池が、パナソニック製単3形アルカリ乾電池LR6XJまたは単3形ニッケル水素電池BK-3MCDの場合です。

ワイヤレスマイク 電源表示灯	電池残量の目安		受信機 電池残量表示灯	電池残量の目安
点灯（緑色）※1	残量あり	→	点灯（緑色）	残量あり（5時間以上）
遅い点滅（赤色）	残量ごくわずか※2	→	点灯（橙色）	残量あり（5時間未満）
消灯	残量なし	→	点灯（赤色）	残量ごくわずか※2
		→	消灯	残量なし（またはマイク電源オフ）

※1 点灯（緑色）：WX-4□□□B,Cシリーズ、WX-4600、WX-4700、WX-4800のマイクは「点灯（赤色）」となります。

※2 残量ごくわずか：新品乾電池に交換、または充電してください。

-
- 電池残量データを送信できるワイヤレスマイクは、WX-UT610、WX-UT630、WX-4□□□B,Cシリーズ、WX-4600、WX-4700、WX-4800（すべて別売品）です。他のワイヤレスマイクでは、電池残量データを送信することはできません。
 - 受信が途切れると電池残量表示はリセットされ、表示灯は消灯しますが、再度データを受信すると再点灯します。
 - 電池残量表示灯が点灯しない場合は「ワイヤレスマイクの電池電圧・残量表示について」（8ページ）を参考にご確認ください。
 - 電池残量（動作時間）は、電池のメーカー・種類・使用時の温度などによって異なります。また、充電池の場合は繰り返し使用回数などによっても異なります。
 - WX-4100B、WX-4212C、WX-4300B、WX-4360B、WX-4370Bで専用充電電池パックWX-4451（別売品）を使用した場合、およびWX-4400Bを使用の場合は、他の電池使用時に比べて各色の点灯時間が短くなります。受信機の電池残量表示灯が赤色に点灯したら早めに充電してください。
 - WX-4800は単4形電池を使用するため、上記使用時間より短くなりますので、ご注意ください。

使
い
か
た

故障かな!?

修理を依頼される前に、以下の内容をご確認ください。

これらの対策をしても直らないときや、この表以外の症状のときは、お買い上げの販売店にご相談ください。

症 状	確認していただく内容	参照ページ
電源スイッチを「入」にしても、電源が入らない	● 電源プラグが、コンセントに確実に差し込まれていることを確認してください。	—
受信しない	● ワイヤレスマイクの電源スイッチは「ON」になっていますか。	—
	● ワイヤレスマイクの充電電池／乾電池は消耗していませんか。	—
	● 受信するグループおよびチャンネルは、ワイヤレスマイクと同じですか。	21
	● チューナーがグループ0（受信OFF）に設定されていませんか。	21
	● アンテナは同軸ケーブルで接続され、アンテナの電源表示灯は点灯していますか。	—
	● 本機の機能設定ロータリースwitchのポジションは「●」のポジションになっていますか。	10
	● 混合分配器を使用してシステム構築をされている場合、受信機のローカル出力から混合分配器のローカル入力に同軸ケーブルが接続されていますか。	17
ワイヤレスマイクの音声が途切れる	● アンテナは α 系、 β 系それぞれ接続されていますか。	11
	● フィールド選択スイッチはワイヤレスマイクを使用するエリアに対して適切なポジションですか。	19
他のワイヤレスマイクの音声が聞こえる（混信する）	● フィールド選択スイッチはワイヤレスマイクを使用するエリアに対して適切なポジションですか。	18～22
	● 異なるグループのワイヤレスマイクを同時に使用していませんか。同グループ、異チャンネルでご使用ください。	18～22
	● 隣接する部屋や建物で同グループ、同チャンネルのワイヤレスマイクを使用していませんか。異なる周波数へ変更してください。	18～22
グループまたはチャンネルの切り換えができない	● 操作ロック設定を確認してください。操作ロックが設定されているときは解除してからグループ・チャンネルを設定してください。	23
音量レベルが変更できない	● 音量レベルロック設定を確認してください。音量レベルロックが設定されているときは、解除してから音量レベルを変更してください。	24
複数のチューナーの受信表示灯が点滅している	● チューナーのグループ／チャンネル設定で0.125 MHzの隣接周波数の設定が存在します。各チューナーは同グループ、異チャンネルに設定してご使用ください。	21
ミキシング出力のレベルが小さい（または大きい）	● 出力レベル切換スイッチのポジションは適切ですか。	11
グループ表示灯「E」を表示し、チャンネル表示灯と共に点滅している	● 販売店に問い合わせください。	—
チューナー1の電池残量表示灯、音声レベル表示灯が共に赤色で点滅している	● 販売店に問い合わせください。	—

仕様

	WX-UR602	WX-UR604
電源	AC 100V 50 Hz / 60 Hz	
消費電力	12 W (電源「切」時0.1 W)	13 W (電源「切」時0.1 W)
アンテナ接続	50 Ω 2系統 2回路 BNCコネクター、ローカル出力 WX-UA695 / WX-4950A / WX-4965 / WX-4970 用 ファンタム電源出力：DC 12 V、80 mA (最大)	
ローカル入出力	50 Ω BNCコネクター 45 MHz	
受信周波数*	806.125 MHz ~ 809.750 MHz (0.125 MHz間隔で30波)	
	30波中 2波	30波中 4波
受信方式*	ダブルスーパーヘテロダイン	
受信感度*	45 dB以上 (20 dBμV入力、5 kHz FMにて)	
スケルチ感度*	12 dBμV以下	
トーンスケルチ周波数	32.768 kHz	
S / N	チャンネル出力：62 dB 以上 (50 dBμV入力、5 kHz FMにて) ミキシング出力：56 dB 以上 (50 dBμV入力、5 kHz FMにて)	
ひずみ率	3 % 以下 (50 dBμV入力、40 kHz FMにて)	
周波数特性	50 Hz ~ 10 kHz (50 μsエンファシス)	
最大出力	+10 dBV (0 dBV=1 Vrms)	
残留雑音	-90 dBV (0 dB=1 Vrms：チャンネル出力) 以下	
フィールド選択*	広い／標準／狭い	
アンテナ感度*	+6 dB / 0 dB / -6 dB (各アンテナ入力ごとに設定可能)	
制御方式	トーン信号によるASK	
電池残量表示	3段階 (緑色／橙色／赤色) (消灯＝データなし)	
音声レベル表示	3段階 (緑色／橙色／赤色) (消灯＝音声なし)	
機能設定	● 通常運用 ● 操作ロック設定 : 解除／設定 (グループ、チャンネル) ● 音量レベルロック設定 : 解除 / 設定 ● 待機時混信低減設定 : 解除 / 6 dB設定 / 12 dB設定 ● 受信レベル表示 : 6段階 (スケルチ (消灯) を含まず) ● スキャン : グループスキャン / チャンネルスキャン ● スケルチ解除 : 通常 / 強制解除 ● メモリークリアー機能 : 工場出荷設定に戻す	
ワイヤレス補助入力	-20 dBV 600 Ω 不平衡	
チャンネル出力	-20 dBV 600 Ω 不平衡 2回路	-20 dBV 600 Ω 不平衡 4回路
ミキシング出力	-20 dBV / -60 dBV (切換式) 600 Ω 不平衡	
使用温度範囲	0 °C ~ +45 °C	
寸法	幅 420 mm ・ 高さ 44 mm (ゴム足含まず) ・ 奥行き 264 mm (つまみなど突起含まず)	
質量	約2.6 kg	
仕上げ	前面パネル：ABS樹脂黒色 マンセルN1近似色 天力バー：黒色塗装 マンセルN1近似色	

※ アンテナ WX-UA695、WX-4950A、WX-4965、WX-4970による

保証とアフターサービス

よくお読みください

使いかた・お手入れ・修理などは

■まず、お買い求め先へご相談ください

▼お買い上げの際に記入されると便利です

販売店名	
電 話	() —
お買い上げ日	年 月 日

修理を依頼されるときは

「故障かな!?(32ページ)でご確認のあと、直らないときは、まず電源プラグを抜いて、お買い上げ日と右の内容をご連絡ください。

- | | |
|--------|--------------------|
| ●製品名 | ワイヤレス受信機 |
| ●品 番 | WX-UR602, WX-UR604 |
| ●故障の状況 | できるだけ具体的に |

●保証期間中は、保証書の規定に従って出張修理いたします。

保証期間：お買い上げ日から本体1年間

●保証期間終了後は、診断をして修理できる場合はご要望により修理させていただきます。

※修理料金は次の内容で構成されています。

技術料	診断・修理・調整・点検などの費用
部品代	部品および補助材料代
出張料	技術者を派遣する費用

※補修用性能部品の保有期間 7年

当社は、本製品の補修用性能部品（製品の機能を維持するための部品）を、製造打ち切り後7年保有しています。

アフターサービスについて、おわかりにならないとき

お買い上げの販売店または保証書表面に記載されています連絡先へお問い合わせください。

長期間使用に関するお願い

安全にお使いいただくために、販売店または施工業者による定期的な点検をお願いします。

本機を長年お使いの場合、外観上は異常がなくても、使用環境によっては部品が劣化している可能性があり、故障したり、事故につながることもあります。

下記のような状態ではないか、日常的に確認してください。

特に10年を超えてお使いの場合は、定期的な点検回数を増やすとともに買い換えの検討をお願いします。

詳しくは、販売店または施工業者に相談してください。

このような状態ではありませんか？

- 煙が出たり、こげくさいにおいや異常な音がする。
- 電源コード・電源プラグ・ACアダプターが異常に熱い。または割れやキズがある。
- 製品に触るとビリビリと電気を感じる。
- 電源を入れても、映像や音が出てこない。
- その他の異常・故障がある。

直ちに使用を中止してください

故障や事故防止のため、**電源を切り**、必ず販売店または施工業者に**点検**や**撤去**を依頼してください。

1. 取扱説明書、本体貼付ラベル等の注意書に従った使用状態で保証期間内に故障した場合には、無料修理をさせていただきます。
 - (イ) 無料修理をご依頼になる場合には、商品に取扱説明書から切り離れた本書を添えていただきお買い上げの販売店にお申しつけください。
 - (ロ) お買い上げの販売店に無料修理をご依頼にならない場合には、修理ご相談窓口にご連絡ください。
 - (ハ) この商品は出張修理をさせていただきますので、修理に際し本書をご提示ください。
2. ご転居の場合の修理ご依頼先等は、お買い上げの販売店または、修理ご相談窓口にご相談ください。
3. ご贈答品等で本保証書に記載の販売店で無料修理をお受けにならない場合には、修理ご相談窓口へご連絡ください。
4. 保証期間内でも次の場合には原則として有料にさせていただきます。
 - (イ) 使用上の誤り、及び不当な修理や改造による故障及び損傷
 - (ロ) お買い上げ後の取付場所の移設、輸送、落下などによる故障及び損傷
 - (ハ) 火災、地震、水害、落雷、その他天災地変及び公害、塩害、ガス害（硫化ガスなど）、異常電圧、指定外の使用電源（電圧、周波数）などによる故障及び損傷
 - (ニ) 指定外の使用条件で使用された場合に生じた故障及び損傷
 - (ホ) 他の接続機器及び接続部材に起因して生じた故障及び損傷
 - (ヘ) 別に指定する磨耗品の部品、その他付属品の故障及び損傷
 - (ト) 本書のご提示がない場合
 - (チ) 本書にお買い上げ年月日、お客様名、販売店名の記入のない場合、あるいは字句を書き替えた場合
 - (リ) 離島または離島に準する遠隔地への出張修理を行う場合の出張に要する実費および高所の取外し、取付に要する実費
5. 本書は日本国内においてのみ有効です。
6. 本書の再発行はいたしませんので大切に保管してください。
7. 修理ご相談窓口は、取扱説明書の保証とアフターサービス欄をご参照ください。

修理メモ
製造番号をご記入ください。

- ※お客様にご記入いただいた個人情報(保証書控)は、保証期間内の無料修理対応及びその後の安全点検活動のために利用させていただく場合がございますのでご了承ください。
- ※この保証書は、本書に明示した期間、条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。したがって、この保証書によって保証書を発行している者(保証責任者)、及びそれ以外の事業者に対するお客様の法律上の権利を制限するものではありませんので、保証期間経過後の修理についてご不明の場合は、お買い上げの販売店または修理ご相談窓口にお問い合わせください。
- ※保証期間経過後の修理や補修用性能部品の保有期間については、取扱説明書をご覧ください。
- ※This Warranty is valid only in Japan.

35

Panasonic

出張修理

ワイヤレス受信機保証書

本書はお買い上げの日から下記期間中故障が発生した場合には本書裏面記載内容で無料修理を行うことをお約束するものです。ご記入いただきました個人情報の利用目的は本書裏面に記載しております。お客様の個人情報に関するお問い合わせは、お買い上げの販売店にご連絡ください。詳細は裏面をご参照ください。

※ 品 番 お買い上げの製品 品番にチェック してください。	☐ WX-UR602 ☐ WX-UR604
保証期間	お買い上げ日から 本体 1年間
※ お買い上げ日	年 月 日
※ お客 様	ご住所 お名前 様 電 話 () -
※ 販 売 店	住所・販売店名 電 話 () -

パナソニック コネクト株式会社

パナソニック株式会社

〒812-8531 福岡県福岡市博多区美野島四丁目1番62号 TEL 0120-878-410

ご販売店様へ ※印欄は必ず記入してお渡しください。

キリトリ線

取扱説明書に記載されていない方法や、指定の部品を使用しない方法で施工されたことおよび現地調達の部品など本機以外の要因により事故や損害が生じたときには、当社では責任を負えません。また、その施工が原因で故障が生じた場合は、製品保証の対象外となります。

■使いかた・お手入れ・修理などは、まず、お買い求め先へご相談ください。

■その他ご不明な点は下記へご相談ください。

システムお客様ご相談センター

電話 フリーダイヤル  **0120-878-410** 受付：9時～17時30分（土・日・祝日は受付のみ）
※携帯電話からもご利用になります。

ホームページからのお問い合わせは <https://connect.panasonic.com/jp-ja/support/cs-contact>

ご使用の回線（IP電話やひかり電話など）によっては、回線の混雑時に数分で切れる場合があります。

本書の「保証とアフターサービス」もご覧ください。

【ご相談窓口におけるお客様の個人情報のお取り扱いについて】

パナソニック コネクト株式会社およびグループ関係会社は、お客様の個人情報をご相談対応や修理対応などに利用させていただき、ご相談内容は録音させていただきます。また、折り返し電話をさせていただくために発信番号を通知いただいております。なお、個人情報を適切に管理し、修理業務等を委託する場合や正当な理由がある場合を除き、第三者に開示・提供いたしません。個人情報に関するお問い合わせは、ご相談いただきました窓口にご連絡ください。

パナソニック コネクト株式会社

パナソニック株式会社

〒812-8531 福岡県福岡市博多区美野島四丁目1番62号